

香川県がん診療連携協議会地域連携パス専門部会（肝がん）会議議事メモ

- 1 日 時 平成21年9月15日（火） 19:00～20:20
- 2 場 所 香川大学医学部管理棟4階会議室2
- 3 出席者 社会保険栗林病院副院長 林 正作
香川大学医学部附属病院消化器内科助教 出口 章広
香川県立中央病院内科部長 高口 浩一
高松赤十字病院第二消化器外科部長 廣瀬 哲朗
香川労災病院第四外科部長 國土 泰孝
三豊総合病院内科副医長 宮武 宏和
オブザーバー
香川県立中央病院外科部長 青江 基
香川大学医学部附属病院中核病院機能強化支援室長 松岡 實夫

4 概 要

肝がん専門部会のリーダーである香川大学医学部附属病院の出口先生が議長となり、資料に基づき説明があった。

1. パスの作成と今後の進め方（地域連携部会での検討事項を含む）
 - (1) 本部会でパスの中身を検討し、10月27日までに成案を作成する。
 - (2) パスの成案をもとに、各拠点病院において連携している地域の医療機関との間で試験運用を行い、問題点を洗い出す。
 - (3) 全体のパス部会において、地域連携パスに係る共通部分（フローチャート、私のカルテ等）を検討する。
 - (4) 5大がんのパスの成案が整理できた段階で、県医師会と協議し、県内各医療機関向けのアンケート調査を行う。
 - (5) 地域連携パスを運用する場合には、各医療機関（かかりつけ医）との間でミーティングを行い、医療機関間の相互理解を深める。
2. 肝がんのパスについて
 - (1) パスの形については、大阪府立成人病センターの地域連携パスを基本的に土台として、香川県独自の変更を加えて作成する。
 - (2) 対象患者は、状態の安定している患者とする。
 - (3) 連携パスの期間は1年毎の更新とし、肝がんの場合、他のがんに比べ入退院が多いので、冊子よりも長期保存できるようバインダー管理にする。
 - (4) 入院毎にリセットする。
 - (5) 1ページ目にかかりつけ医用の取扱説明書を設け、具体的な検査・治療方法及びかかりつけ医の判断しやすい基準値を記載し、異常があれば拠点病院に連絡する旨を掲載する。
 - (6) かかりつけ医用と患者用を作成する。
 - (7) 肝硬変・B型肝炎・C型肝炎等病名を明記し、Child 認定をする。
 - (8) 今後、本部会での検討事項は、メールのやり取りで行う。